

第4回全国弓道指導者研修会

《国庫補助事業》



紐を使用しての射法八節

第4回全国弓道指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本弓道連盟、後援＝文部科学省）が、2月19日～21日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、87名（男性62名、女性25名）が参加して実施された。

本研修会は国庫補助事業として、全国で弓道を指導する中学、高等学校の教員、及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、弓道の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実に努め、もって全国的な弓道指導者の養成と資質向上に資する事を目的として開催された。

■第1日（2月19日）



原田茂樹事務局長

開講式の主催者挨拶では、原田茂樹全日本弓道連盟事務局長が「本日は日本各地より87名の方にご参加いただき、主催者として心より御礼申し上げます。副会長の那須弘平よりメッセージを預かっておりますので代読いたします。『第4回全国弓道指導者研修会に参加される皆様方におかれましては、技量の研鑽と共に、指導者としていかに指導していくかという視点に立ち、ご研鑽されることを望みます。研修会を通して互いに尊重し、積極的に学び、交流を深めることによって弓道の理解を深め、研修会参加者の皆様にとってより有意義なものとなることを願っております』と述べた。

開講式の主催者挨拶では、原田茂樹全日本弓道連盟事務局長が「本日は日本各地より87名の方にご参加いただき、主催者として心より御礼申し上げます。副会長の那須弘平よりメッセージを預かっておりますので代読いたします。『第4回全国弓道指導者研修会に参加される皆様

また、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「全国から多数の方にご参加いただきありがとうございます。本研修会の目的は弓道指導者の技能及び指導力向上と中学校武道必修化の弓道授業を充実させることにあります。中学校武道必修化は完全実施後4年目となりますが、大きな事故もなく順調に行われています。実施率は、柔道が6割強、剣道が3割強、弓道他の武道が1割弱で、スタート時とほぼ変わりなく推移しています。中学校の弓道授業は弓道場や体育館で一斉指導をしますので、伝え方・教え方が弓道の課題となります。

今後、毎年100万人の中学生が武道経験者になりますので、10年後には1,000万人、100年後には全国民が武道経験者となります。すなわち、中学校武道必修化は国民皆武道経験者への道であります。弓道の素晴らしさを伝えることにより、中学生、国民を元気にし、良い国を作るという信念を持って勉強していただきたいと思います。

本研修会のプログラムは弓道連盟の先生方が知恵を絞って作成しております。受講生の皆様には日本を代表する講師の先生方からしっかり学んでいただくと同時に、お互いの情報交換、理解を深め、3日間が充実したものとなるよう期待いたします」と挨拶を述べた。

開講式終了後、特別講師の影山一全日本弓道連



三藤芳生理事・事務局長

盟理事が『部活動の現状と課題』と題し、高等学校の部活動について、自身の教員時代の体験を基に講演した。「勝利至上主義は否定される事が多いが、勝たないとわからない事もあります。しっかりと教え、生徒の能力を最大限に引き出し、最終的に勝利することで生徒は部活動以外のことにも自信を持ち、生き活きとしてきます。勝つために一生懸命練習するという事は大切なことです」と部活動における指導の在り方について熱く語った。

続いて弓具のメンテナンス方法について久保田清主任講師が実演しながら説明した。握り皮の巻き方、弦輪の調整、中仕掛けの作成をビデオカメラで撮影し、その画像をスクリーンに映し出して説明した。



スクリーンに映し出して説明

その後 9 つの班に分かれ、テーマ（共通課題：中学校保健体育における弓道授業採択に向けての方策。班別課題：①授業・部活動が安全に行われる為の問題点と配慮、②セクハラ・パワハラ等のハラスメントが起こらないための課題と配慮、③外部指導者のより一層の活用を図るにはどうしたらよいか、④指導者として、どのような弓道を目指すべきか、⑤指導者と生徒の関わりについて）に沿いグループディスカッションを行った。各班で意見をまとめ、夕食後に全体発表を行い、担当講師からテーマ毎に説明がなされた。司会を務めた高橋文彦講師からは、②の解説と関連し、体罰問題について、「生徒との信頼関係があれば大丈夫だろうという発想は危険です」との助言があった。



グループディスカッションの様子

また、実際に弓道を採用している中学校の保健教諭から授業についての実践例報告が行われた。その中で静岡県の参加者より「本校は聴覚特別支援学校で、耳に衝撃があると聴力が下がる恐れがあり種目選択について迷っていたところ、弓道連

盟より弓具の提供及び指導者派遣をしていただけるというお話があり弓道を実施しています。安全面に配慮すれば入場から退場まで一人で問題なく実施できております」との報告があった。

■第2日（2月20日）

二日目は早朝より、中学校の体育館での実技を想定し、受講生全員で養生シートを敷き、射場の設置と的貼りをを行った。朝食後、久保田主任講師による『射法八節』の解説講義を全員で聴講した。スクリーンに映像を映し出し、注意すべき点について順を追って解説した。

その後、3班（A：学校授業対応、B：学校部活動、C：初心者）に分かれて目的別研修を行った。

A班では桑田秀子講師が弾の付け方、弓と矢の扱い方、射法八節等について説明した後、弓、弾使用による離れ練習、弓と矢を使用する素引き練習、的前練習と授業で生徒に分かりやすく教えるためのポイントを指摘しながら指導した。



指導の様子

■第3日（2月21日）

最終日は班毎に分かれて早朝稽古を行い、朝食後、引き続き目的別（A班とC班は合同で実施）に実技研修を行った。A、C班は1～9の番号を紙に書いて的にし、ビンゴのゲーム形式でチーム対抗戦を行い、大いに盛り上がった。



研修会の締めくくりとして高橋良子講師、増渕敦人講師、高橋文彦講師による特別演武が行われた。張りつめた空気の中、放たれた矢が心地よい音色を奏でて的に突き刺さった。

閉講式の講師講評では久保田主任講師より「短い期間でしたが、ここで学んだ事を持ち帰り、教育現場で活かしていただきたいと思います」と総括の挨拶があり、3日間の研修の全日程が終了した。